

大切な 甲賀市の自然 ①

甲賀市内にすむ
絶滅が心配される動植物や
それらを育む大切な
自然についての連載です

春の女神ギフチョウ



▲陽だまりで日光浴するギフチョウ



▲カンアオイに産みつけられた卵

暖かくなると、さまざま
なチョウが飛び出しますが、
春の短い間に現れる「ギフ
チョウ」をご存知でしょ
うか？

黒と黄色の鮮やかな模様
と美しい姿から、「春の女
神」と呼ばれる、日本特産
の小型のアゲハチョウの仲
間です。

ギフチョウが現れるのは、
近畿地方では1年の内4月
の数週間、スミレやツツ
ジなどピンクや紫色の花を
好んで訪れます。

卵はカンアオイという植
物の若葉に産みつけられま
す。幼虫は葉を食べて夏前
には蛹となり、次の春まで

長い間休眠します。

このギフチョウ、北陸地
方など一部を除いて、全国
的に減少しています。その
原因は、開発以外に、里山
の荒廃が大きな要因といわ
れます。カンアオイは明る
い林で大きく育つ草で、杉
林や手入れのない暗い林で
は十分に育たないからでし
ょう。

甲賀市では、1960年
頃までは信楽町の朝宮付近、
鈴鹿山地の三重県境付近で、
しばしば記録があるものの、
それ以降は、1990年代
前半の飯道山付近の記録1
例のみで、絶滅が心配され
ます。

お隣の日野町や伊賀市に
は現在も少ないながら生息
しており、甲賀市内でも健
在を確認したいものです。

みなくち子どもの森自然館
☎ 63-6712 FAX 63-0466

4月の
休園日
3(月)、10(月)、
17(月)、24(月)

甲賀市文化協会連合会文芸欄

今回は甲南町文化協会からお寄せいただきました。

ほおじろ短歌会詠草

「吟竹歌 お花見」

- ・ はじらいつつ初めて紅さす乙女に似たり鯨の桜今三分咲き 鶴飼 洋子
- ・ 老木の満開の桜ながめつつ歌友といつとき春を楽しむ 藤田 悦子
- ・ 村おこしとシルバーク族が植えしとう幾万と咲く鮎河のさくら 八里 いよ
- ・ せせらぎを聞きつつ昼餉のにぎやかに桜木下にシート広げて 御崎ミサ子
- ・ 空覆う小枝の先まで桜開くあらしい幹そつと触れみる 山脇知鶴子
- ・ 山里に春を奏でるうぐい川木橋に聞き入る瀬音 風音 村井 君代

「雑詠」

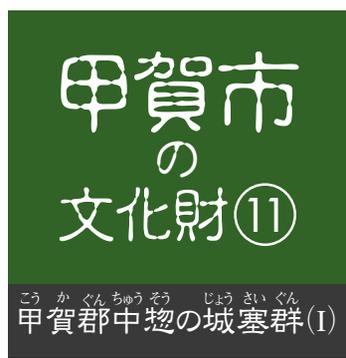
- ・ 孫はいう『山が燃えてるようだね』と秋の夕焼け目に飛び込みぬ 今村 緑
- ・ 鈴鹿嶺のひとときわ高き綿向の山は白銀朝日に映える 岡崎 照
- ・ 人ひとり心あたたむ秋の夜を澄みし音響くトライアングル 桂 歌子
- ・ 紫蘇の実の佃煮栗の渋皮煮キツチンにわたしの時間は流れる 北川 浩子
- ・ 傾斜地を拓きて育てし蕎麦を打つ手際も良くて農業祭賑わう 木下 房乃
- ・ 夫送る柩に入れし秋明菊主なき庭に白く咲き初む 千葉 和子
- ・ 十五本白線引かれ五十台のガレージ生まれる柘植の駅前 堀井 菊野

次号（5月1日号）は甲賀町文化協会の予定です。



● 郡中惣の集会場となった矢川神社境内

甲賀市は中世城館遺跡の宝庫で、木々に覆われた里山の随所に今も土塁や掘跡を見ることができず。高くはないが、入り込んだ丘陵が幾重にも連なり、この複雑な地形が天然の要害となっていました。城館遺跡の数は甲賀市全体で199遺跡にも及び、全国有数の城館の密集地帯です。市内には水口城や水口岡山城、多羅尾氏の陣屋跡など実に多様な城がありますが、注



こう か ぐん ちゅう そう じょう さい ぐん
甲賀郡中惣の城塞群 (I)

目すべきは、土造りの中世城館が戦国時代の姿そのままに今も数多く残っていることです。甲賀、甲南、水口地域の城の多くは、三方に見晴らしがきく、標高200〜300mの丘陵の先端部分に築かれており、土を削り込み、あるいは掻き揚げて高い土塁を築いています。その構造は四角く土塁で囲んで主郭とする単郭方形型であり、一辺50m程度の小規模なものが多く、面白いことに、甲賀の城はほぼこのプランを基本として築城されていることです。

ところでなぜ同じタイプの城が多く築かれたのでしょうか。それは戦国期の甲賀武士の組織と関係があります。中世後期、甲賀の小領主たちは総領家とその分家に当る庶子家が結束を強め、被官を従えてひとつの独立した集団を形成していました。この同姓を名乗る（一部非血縁の者も含むが）一族結合を同名中惣と言います。同名中では総領家が絶対的な強い力を持っていたわけではなく、庶子家も自立した存在で、彼らが地域支配のステータスとして各々城を持っていたために、これだけ多数の城が同じ造り方で築かれたと思

われます。さらに近隣の同名中どうしが小地域で連合し、戦国後期には一郡規模で連携をはかるまでになり、こうした小領主たちによる結合が日本史上著名な「甲賀郡中惣」です。各同名中から選出された10人の奉行が寄合いをして事に当り、相論の仲裁などに関与しましたが、その参会の場に甲南町矢川神社が利用されることもありました。

甲賀地方を一円的に支配する突出した権力者が現れなかったために、特別規模の大きな城も造られませんでした。甲賀の城に見られる同質性はまさに甲賀武士の水平的な組織の性格によるものと言えるでしょう。それが城館の構成にまで反映し、今も身近な里山に見られることは大変貴重なことなのです。

※庶子家：総領を中心とした中世武士団の中で、嫡子以外の者のことをいう。

【問い合わせ】
文化財保護課
☎ 86-8026
FAX 86-8380

「事実は小説より奇なり」といいます。心躍らせる歴史小説も、史実に基づくところがあってこそ。甲賀市の歴史を描く市史としては、どれだけ多くの史料を発掘できるかが、その内容を決めるといっても言い過ぎではありません。

幸い事業開始以来、多くの区や社寺、個人の皆さんにご協力をいただき、70文書群、34,600点を目録化。撮影した写真は60,000コマに達しました。市全体の歴史を描く市史としての取り組みを、ご理解いただいたものと感謝しています。

最も多いものは各区で保存されてきた区有文書で、訪問した公民館の押入に押し込まれた開けたこともない黒い木箱から、多くの重要な古文書が飛び出し、地元の方も驚くことが少なくありません。

ここからは江戸時代の村や村人の様子が細かく読みとれ、領主の厳しい支配のなかであっても、自らの責任と判断で村落の経営に努める村人の姿が見え、今日のまちづくりにも通じる精神を感じ取ることができます。

また、時代や世代による違いとともに、今も昔も変わらぬ人の心に接し、思わず「やっぱり、なるほど

と声が出ることもしばしばです。

歴史探訪のキモは、史実のなかにどれだけの興味と共感を見いだせるかだといわれます。一見反古（ほご）同然の紙片に光を当て、甲賀の歴史を今によみがえらせるため、ひきつづき市民の皆さんのご協力をお願いします。

市史の小径

第8回

進む古文書調査



● 今、歴史の事実にも光が...

【問い合わせ】 総務課市史編纂係
☎ 86-8075 FAX 86-8380